

# 福音とは： 私たちの罪の許しのためのイエスの死と体の復活のメッセージ それとも「モルモン教会のすべての教え、律法と儀式へ従うこと」？

Copyright©2010 Mormon Outreach Ministries, Sydney

末日聖徒イエス・キリスト教会（モルモン教会）は、ジョセフ・スミスが 1830 年に福音を復元するまで、まことのイエス・キリストの福音が失われていたと主張しています。「復元」とは、「もとの形態・位置に戻すこと。また、戻ること」ことを意味し、<sup>1</sup> 追加、除去あるいは変化は、「復元」とは違います。ガラテヤ人への手紙 1：6-8 で使徒パウロは、イエス・キリストから啓示された福音を弁証しています（ガラテヤ人への手紙 1：11-12）。

一部の人は、「異なる福音」を宣べ伝えていました。永遠に天の父と一緒に暮らすためには、キリストに対する信仰だけでは不十分で、非ユダヤ人のキリスト教信者はユダヤ人の律法と習慣に従わなければならないというものです。パウロは「違った福音」を宣べ伝えていることに強い警告をしています。

<sup>1:6</sup> あなたがたがこんなにも早く、あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて、違った福音に落ちていくことが、わたしには不思議でならない。<sup>7</sup> それは福音というべきものではなく、ただ、ある種の人々があなたがたをかき乱し、キリストの福音を曲げようとしているだけのことである。<sup>8</sup> しかし、たとえわたしたちであろうと、天からの御使であろうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろわるべきである。（ガラテヤ人への手紙 1：6-8—口語訳）

モルモン教会で教えられている「福音」は、パウロが教え、現在私たちの聖書に見いだせる福音でしょうか？「回復された」福音が事実かどうか決定するために、モルモン教会正典と公式の教義を学びました。「完全な永遠の福音」のモルモン教会の主張から始まって、モルモン教会で教えられている「福音」へと移ってみましょう。

## I 「完全な永遠の福音」とは？

モルモン教会は、『モルモン書』には「完全な福音」（『教義と聖約』20:8-9, 42:12—モルモン教会正典の一冊）や「完全な永遠の福音」（『教義と聖約』27:5,135:3,『モルモン書』の序文 1 段落）が載っていると教えています。モルモン教会及び最高指導者は、「完全な永遠の福音」は「完全な福音」と同じで、モルモン教会の教えと神権（『教義と聖約』84：19）を意味すると教えています。それらを受け入れるならば、日の栄えの王国の最高の段階で『昇栄』、つまり「神になる」などを教えています。第 10 代モルモン教会管長のジョセフ・フィールディン・グスマスは、こう教えました。

完全な福音とは 日の栄えの王国で昇栄に関連するすべての律法、戒律を意味する。

(*Doctrine of Salvation*, vol.1.p.160)

この時点でモルモン教会で教えられている「福音」についてはっきりしていません。モルモン教のいう「福音」とはなんでしょう？

## II 「福音」とは？

モルモン教会は「福音」は「イエス・キリストの贖罪によって可能になった神の救いの計画」で、福音には「人が神のもとに戻るのに必要な、永遠の真理や、律法、聖約、儀式が含まれる」と教えています（*Preach My Gospel-A Guide to Missionary Service*, 2004. p.70、『聖書ガイド』—「合本：モルモン書、教義と聖束、高価な真珠」内、1995 年、220 頁）。

『高価な真珠』（モルモン教会の正典の一冊）にある信仰箇条第三条によると、モルモン教会は「キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる」とあります。

『福音の原則』（2009 年、277 頁）（モルモン教会公式の学習テキスト）には、「回復された福音」の詳細が教えられています。

昇栄する条件

今こそ昇栄の条件を満たす時です（アルマ34：32—34 参照）。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように述べています。「昇栄を得るには福音と福音のすべての聖約を受け、主が示された義務を引き受けなければなりません。また真理を理解して光の中を歩み、『神の口から出る一つ一つの言葉に従って生きなければならない』のです」（*Doctrines of Salvation*, 第2 巻, 43）

278 頁には、昇栄するための条件である五つの特定儀式と十の必修掟を挙げています。

([http://www.lds.org/languages/pdf/gospelprinciples/GP\\_2010\\_Unit09\\_49\\_47\\_Exaltation\\_06195\\_jpn\\_49.pdf](http://www.lds.org/languages/pdf/gospelprinciples/GP_2010_Unit09_49_47_Exaltation_06195_jpn_49.pdf) を参照)

モルモン教会は、恵みとは「信仰を實踐し、悔い改め、全力を尽くして戒めを守る人に神から授かるけられる力」で、この力によって、人は永遠の命、昇栄を授かることができると教えています（（モルモン教）『聖書ガイド』254 頁）。恵みは、私たちの行いでふさわしさを証明した後に（神から）授かるものだそうです。

わたしたちが最善を尽くした後、神の恵みによって救われることを知っているからである。（ニーファイ第二 25:23—『モルモン書』内）

まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。もし、あなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と意思と力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。  
(モロナイ 10:32 – 『モルモン書』内)

福音の計画の一部である個人の義の標準に従うことに比例して恵みは付与されます。

(Bruce R. McConkie, *Mormon Doctrine*, p.339)<sup>2</sup>

対照的に、聖書は、福音はわれわれの罪の許しのためのイエスの死と体の復活のメッセージで（コリント人第一 15:1-4）「**神のめぐみの福音**」（使徒行伝 20:24）と教えています。独りよがりな働きではなくて、恵みのみによって、私たちが罪を告白するならば、神はすべての私たちの罪を許して、主のみ前に住むのにふさわしい者としてくださるのです（エペソ 2:8-10、テトス 3:5-6、ヨハネの手紙第一 1:7-9）。

あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。2:9 決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。（エペソ 2:8-10）

1:6 神と交わりをしていると言いながら、もし、やみの中を歩いているなら、わたしたちは偽っているのであって、真理を行っているのではない。しかし、神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。1:8 もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにない。1:9 もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。  
(ヨハネの手紙第一 1:6-9)

使徒パウロは、私たちの罪の許しのためイエス・キリストの人物と働きを中心とした福音を宣べ伝えました（コリント第一 15:1-4）。パウロが教えた福音は、「福音の律法と戒律」ではありません。パウロは功績を伴う働きを除外する福音を宣べ伝えたのです。

しかし、恵みによるのであれば、もはや行いによるのではない。そうでないと、恵みはもはや恵みでなくなるからである。  
(ローマ人への手紙 11:6)

モロナイ書 10:32 によると、恵みを授かる前に、自分自身の努力で罪のない者とならなければならないとあります。自分の努力で罪がなくなることができるのなら、なぜ、私たちは恵みを必要とするのでしょうか？<sup>4</sup>

故モルモン使徒マッコンキーによると、義人であるほど、恵みは増し加わり、義人でなければならぬほど、恵みは減り加わるといふことです。<sup>5</sup> この教えは、聖書の教えに真っ向から反対します。

律法がはいり込んできたのは、罪過の増し加わるためである。しかし、罪の増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれた。  
(ローマ 5:20)

恵みは、モルモン教徒にひどく誤解されています。モルモン教徒の多くはこうに言います。「他の教会のクリスチャンは、恵みだけで救われると言って、いろいろな邪悪なことをしています」使徒パウロは、こういった異議を予想していました。「では、わたしたちは、なんと言おうか。恵みが増し加わるために、罪にとどまるべきであろうか。断じてそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なお、その中に生きておられるだろうか」（ローマ人 6:1-2）（ガラテヤ 2:17 参照）キリストとともに死んだ人（ガラテヤ 2:19-20）は、「新しく作られた者」（コリント第二 5:17）です。そういうわけで、私たちは罪の支配下で生き続けてはなりません。神は私たちを救われた後、そのままに残しておくのでしょうか？ 否です。神には、私たちの人生に計画と目的があります。

わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである  
(エペソ 2:10)

これは、わたしたちが、キリストの恵みによって義とされ、永遠のいのちを望むことによって、御国をつぐ者となるためである。この言葉は確実である。わたしは、あなたがこれらのことを主張するのを願っている。それは、神を信じている者たちが、努めて良いわざを励むことを心がけるようになるためである。これらは良いことであり、人々の益となる。  
(テトス 3:7-8)

使徒パウロは、神の罪の許しの賜り物を受けるためには、悔い改めと信仰が必要なすべてであることを教えました。しかし、新しい先生（the Judaizers）は、非ユダヤ人（異邦人）のキリスト教改宗者は（イエスを信じるだけではなく）割礼を施され、ユダヤ教律法を守らなければならないと主張していたのです。ガラテヤの信者は、この新しい教えに従っていました。彼らは、実際、恵みの福音を捨てていたのです。恵みと働きを混ぜていました。恵みと働きを混ぜている人には、「キリストはあなた方に用のないものになろう」（ガラテヤ 5:2）罪人が自分の救いのために働くことを必要とする「福音」は、恵みを拒絶しているのです。他の福音を持ってくる者に対して、「その人はのろむべき」というパウロの強い言葉に注意してください（ガラテヤ 1:8）。モルモン教会の「福音」はイエス・キリストの人物と働きが中心ではなく（コリント第一 15:1-3）罪深い人間の人物と働きが中心です。<sup>6</sup> 「恵みの福音」を否定する

『モルモン書』は、ほかの福音で、全く福音ではないこととなります。興味深いことに、『モルモン書』にあるニーファイ第三 11:39-40 は、イエスは彼の教義から追加・削除したりする人に警告を与えています。「恵みの福音」を否定する『モルモン書』はもうひとつの福音で、全く福音ではありません。興味深いことに、『モルモン書』内のニーファイ第三 11:39-40 で、イエスは 彼の教義に追加・削除したりする人に警告を与えていることになっています。<sup>7</sup>

神はガラテヤ人への手紙 1:6-9 を通してすでに『モルモン書』について教えてくださったと結論します（コリント第二 11:4 参照）モルモン教会や、最高指導者に教えられた「完全な永遠の福音」は、聖書にも、『モルモン書』にもありません。モルモン教会の専門用語は、これらに関する概念の理解を難しくしてしまいました。

一旦、用語が理解されるならば、モルモン教会及び、最高指導者が「異なる福音」と「異なるイエス・キリスト」を教えていることが明白となります。本当の聖書のイエス・キリストの、本当の福音は簡単で、子供ですらそれを理解することができます。

1 <http://kotobank.jp/word/%E5%BE%A9%E5%85%83>

2 マッコスキー氏はこの本を執筆した時は、モルモン教会の「中央幹部」の一員でしたが後にモルモン教会「使徒」となります。「中央幹部」はモルモン教会の大管長から行政的な権威を委任されたモルモン教会指導者の称号です。「十二使徒」は教会の最高指導者、大管長（「預言者」）と補佐する二人の「副管長」の支持の下に働いています。

3 恵みとはふさわしくない人間に無償で与える祝福です。（P.H.Huges, ed. Walter Ewell, "Grace" in "Evangelical Dictionary of Theology" (Grand Rapids, Baker Book House, 1994) p.479

4 John Farkas & David Reed, *Mormons- How to Witness to Them*, (Grand Rapids, Baker House, 1997) pp.107-108

5 James R. White, p.269 *Letters to a Mormon Elder* (Minneapolis, Bethany House Publishing, 1993) p.270

6 James R. White, p.263

7 ニーファイ第三 11:39-40 はこうっています。「まことに、まことに、あなたがたに言う。これがわたしの教義である。この教義の上に建てる者はわたしの岩の上に建てるのである。、地獄の門もこれらの者に打ち勝つことはない。また、これ以上のこと、あるいはこれに及ばないことを告げ知らせ、それをわたしの教義とする者は、悪から出る者であり、、わたしの岩の上に建てられてはいない。このような者は、砂の土台の上に建っているのである。 地獄の門は開かれており、洪水が起り、風が打ちつけるときにこのような 者を迎え入れる」

I owe ideas and inspiration to John Farkas, who is the President of *Berean Christian Ministries*, a Christian outreach Ministry to Mormons.

(<http://www.frontiernet.net/~bcmmin/index.shtml>)